

1.調査目的等

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

国語A(109)、国語B(105)、算数A(108)、算数B(98)

3.指標に向けての取組

【学習の基盤づくり】

- 朝の学力補充における課題克服プリントの徹底(国語科、算数科の基礎・基本問題)
- 漢字コンクール(学期1回)・漢字検定(年間1回)の実施
- 活用力診断プリントの補充、過去問題への取組(専科入り込みによる複数体制指導)

【授業づくり】

- 基礎・基本の習得と定着
- ・「めあて、見通し、一人学び、学び合い、まとめ」の学習過程の徹底
- ・算数科の重要単元における分割、習熟度別学習指導による個に対応した授業
- 書く力の育成(1単位時間内に必ず書く活動を位置づけた授業づくり)

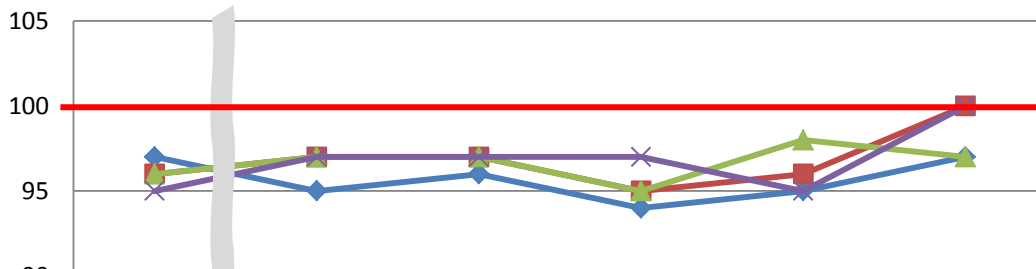
【家庭との連携】

- 家庭学習振り返り週間(学期に1回)の実施、学力向上通信の定期的な発行と保護者への啓発

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語A	国語B	算数A	算数B
本校	97	100	97	100
嘉麻市	97	99	97	98
全国	100	100	100	100

推移



	22年実施	26年実施	27年実施	28年実施	29年実施	30年実施
国語A	97	95	96	94	95	97
国語B	96	97	97	95	96	100
算数A	96	97	97	95	98	97
算数B	95	97	97	97	95	100

5.各学校における分析

○算数Bでは、短期指標及び全国の標準化得点に達成し、国語Bでは、全国の標準化得点に達した。これは主題研究の国語科における「書く活動」に中心をおいた授業改善の成果であり、「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書く」「意図を捉えながら、自分の意見と比較して考えをまとめる」力が育ってきていると考える。同様に算数においても、「既習の内容から見通しを立て、考えをまとめる」力が定着していると捉える。

●基礎・基本となるA問題が、短期指標を達成しなかった。全国比においても、国語A、算数Aともに－3ポイントの開きが生じている。これは、①基礎・基本の問題の徹底(国語:漢字の同音異義語、主語と述語の関係等、算数:図形、グラフの読み取り等)、②問題文の読み取り(読解力)と「読み取ったことをもとに考える力(思考力)」が不足していることが要因である。学習の基盤づくりとともに家庭学習の取組の継続、徹底を一層推進していく必要があると考える。

6.各学校における今後の取組

【学習の基盤づくり】

○朝の学力補充における課題克服プリントの徹底(国語科、算数科の課題を明確にした問題作成)、条件付きの「書く」プリントの実施・自己評価・他者評価

○漢字や言語の知識・理解の定着(漢字コンクール(学期1回)・漢字検定(年間1回)の実施と熟語集め、辞書引きの徹底等)

○学力テストの過去問題への取組(専科入り込みによる複数体制指導)

【授業づくり】

○算数科の重要単元における分割、習熟度別学習指導(全学年)による個に対応した授業

○書く力の育成(国語:目的・観点・方法を明確にした話し合い活動の充実との関連、算数:図や表を使い考えをまとめる学習の徹底)

【家庭との連携】

○家庭学習振り返り週間(学期に1回)の実施、中・高学年の自学ノートの内容の充実、学力と関連付けた通信での保護者への啓発

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

〔嘉麻市学力向上推進プランに基づき、学力向上検証改善委員会を核として学力向上具体策の浸透・徹底を図る。〕

嘉麻市教育アクションプラン、嘉麻市学力向上全体構想、各学校学力向上プランの関連を明確にし、具体策を全ての学級に浸透させる。

短期検証改善サイクルの実施状況を把握し、好循環に向かうよう適時性のある指導を継続する。

学力向上プランの実効性を高めるための指導助言を行うとともに、各学校における効果的な実践の普及に努める。

指導と評価の一体化を図り、特に単元終末段階における習熟度別学習の充実を支援する。

繰り返しの指導が計画的に実施されるよう、カリキュラムマネジメントを推進する。

家庭学習の個別化を推進するとともに、取組に具体的な指標をもたせ、進捗状況を把握し支援を行う。

主幹教諭研修会を小中別分科会とし、それぞれの学校種の課題に即応する研修内容を工夫する。